

はしもとみお展

— 一時を刻むいきものたち —



撮影：ウラタカヒデ

佐野美術館は、2024年10月5日（土）から12月22日（日）まで、「はしもとみお展一時を刻むいきものたち」を開催します。山形、栃木、兵庫を巡回し、静岡にて展覧会の最後を飾ります。

はしもとみお（1980年兵庫県生まれ）は、三重県北部の古い民家にアトリエを構え、動物たちのそのままの姿形を木彫りにする肖像彫刻家です。動物たちの肖像制作をはじめ、フィギュアやオブジェの原型制作、動物たちのイラスト等を手がけます。

本展は、「時間」をテーマとし「いきものたちとの出会い」「いきものたちへのまなざし」「旅先での出会い」「時をかける物語」「これからの物語」の5章構成で、彫刻作品約80点、スケッチ、資料ほかを展示。木彫りの動物たちに間近に触れ合うことができます。

展覧会について

はしもとみおの作り出す動物たちの彫刻は、ぬくもりや息づかいまでも感じさせます。それは「どこかにいる動物」ではなく、はしもとみおの身近に暮らす動物や、旅先で出会い、ふれあった動物たち1匹1匹の個性や思い出をそのまま再現しているからでしょう。獣医になりたいと夢見ていた彼女は1995年に阪神・淡路大震災で被災し、動物たちのいる風景が一瞬にして失われるという光景を目の当たりにしました。この体験をきっかけに、たとえ失われた命であってもその輝きを彫刻という形で残したいと考えるようになります。

本展では「時間」をテーマに、モデルの動物たちが生きてきた時間と、はしもとみお本人の過ごしてきた時間とつなげてその軌跡をたどります。新作を含む彫刻をはじめ、これまでに発表されていない、被災後から美術大学在学中の作品や、作品を制作するまでに丁寧に観察した動物たちのスケッチ、モデルそれぞれの個性を記録したメモなども多数展示します。

はしもとみおの作品を通じて、私たち人間とともに生きている動物たちの命を記憶する、形に残すという意味を感じていただける展覧会です。

展覧会関連イベント

■はしもとみおさん来館記念イベント

ギャラリートーク 10月5日（土）10:30～11:30

木彫りブローチワークショップ 10月5日（土）13:00～16:00 ※9月4日はがき申込締切、申込多数の場合は抽選

■早期来場者特典 先着5,000名に静岡会場限定・展覧会オリジナルカードプレゼント！ ※お一人様1枚

開催概要

展覧会名：はしもとみお展一時を刻むいきものたち

会期・時間・休館日：2024年10月5日〔土〕-12月22日〔日〕 10:00-17:00（入館の受付は16:30まで） 木曜日

会場：佐野美術館（411-0838 静岡県三島市中田町1-43）

入館料：一般・大学生1,300円、小・中・高校生650円

主催：佐野美術館、三島市、三島市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送

後援：静岡県教育委員会 協賛：伊豆箱根鉄道株式会社 企画：神戸新聞社 特別協力：ヤマト運輸株式会社

展覧会公式サイト：https://sanobi.or.jp/exhibition/hashimoto-mio_2024/

広報用画像

展覧会紹介のための作品画像のデータ等を、プレス関係の方向けにご用意しています。①～⑬の画像を提供できますので、電話またはメールでご連絡ください。

※本展紹介以外での使用、本展終了後の使用、二次利用はお断りします。画像使用の際に、展覧会名、会期、会場、作品クレジットを必ずご記載ください。画像は全図で使用してください。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬

作品クレジット

②③、⑤⑥、⑧～⑬ 撮影：ウラタタカヒデ

④⑦ 撮影：森田直樹

※①は記載不要です



撮影：かくたみほ

この美術館に足を踏み入れたとき、お庭の美しさとお水の清らかさにこころがあらわれました。この地で時を刻む事になった木彫りのいきものたちは、刻々と変化する街の風景や、木々や、水に、気持ちよさそうに過ごすことでしょう。歴史という言葉では足りないほどの長い時を刻んで山や水、木々は育ち、たくさんの他の生命をはぐくみ、いきものたちはよりいっそう生命を輝かせることでしょう。

私は、いきものたちだけではなく、彫刻になってくれた木たちのこともよく考えます。どんな木だったんだろう、どんな姿で、どんな所にいたんだろう...きっとたくさんの年月を生きて、健やかに過ごしたことでしょう。そんな、ここにいる動物たちが木だった頃の歴史を振り返るような展覧会にもできたらと思います。

一本の木が、彫刻のいきものたちになるまでの過去の時、いきものたちになってから過ごしている現在の時を超えて、私たちがいなくなってしまう未来の時も、ずっとたくさんの人たちや風景に出逢いながら、長い永い時を刻み続けてくれることを願っています。

この美しい土地で、巡回展の最後を飾れることを心より感謝します。

はしもとみお